

# 論壇

## 経営者マインド悪化も

少し前から、この欄で経済に忍び寄る不穏な動きについて触れてきた。ただ、ここにきてその動きは、私が予想していたよりもスピードが速くなっているようだ。

25日の午前中の時点で、日経平均は前日の終値よりも800円前後も下落して、ついに2万円を大きく割ってしまった。2万円という数字に特に深い意味があるわけではないが、経済全体への心理的なインパクトは大きい。もちろん株価が暴落しているのは日本だけではない。米国や欧州でも同じようなことが起きてい

## 伊藤 元重

学習院大教授(国際経済学)

企業経営者の方々と話しても、「当面業績が非常に悪くなっているわけではないが、この先が非常に不安である」というような発言をする人が多いように感じる。景気は気から来る、と言われることがあるが、株価や為替レートの動きによって経営者のマインドが悪化するれば、投資の減退などにつながる。足元でもそのような動きが起

## 不安定感増す世界経済

り、実体経済に悪い影響が広がる。実体経済にすぐに影響が及ぶという意味では、株価よりも注目すべきなのは為替レートの動きである。世界経済で全体的にリスクが高まると、市場の資金はリスクを避ける方向に流れる。これを

一つは、10年前のリーマン・ショック後、主要国があまりにも極端な金融緩和策によって経済を刺激してきたということだ。要するにカンフル注射を打ち続けて来たのだ。50年か100年に一度と言われたリーマン・ショックから抜け出すには、そうした極端な金融緩和策は必要だったのだろう。

ただ、それが10年近く続くことで、経済の中に醸成された金融市場の過熱が大きな懸念材料となっている。日本もその例外ではない。株価が下がって水準調整をするとは、こうした過熱を冷やす上では好ましい面もあるが、それが暴落につながるようだと困る。

トランプ氏の刺激策影響

世界経済が不安定感を増しているもう一つの要因は、明らかにトランプ大統領の政策運営だろう。次々に主要閣僚を解任し、中央銀行総裁を解任するとまで発言したトランプ大統領の行動は、世界最大の国のトップとしては不安感を持って見ざるをえない。経済を刺激する政策を次々に打ち出したことがトランプ政権の強みのように言われることがあるが、乱暴な買気刺激策はカンフル剤の注射でしかないようにも見える。カンフル剤だけでは、経済は持続的な成長を続けられない。

年の背になって、こんな悲観的な論評をしたくはなかった。私の想像が外れて、年が明けたら明るい要素がいろいろと見えてくることを期待したいものだ。

\*この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。無断転載、複製を禁じます。